

地球にECO(いーご)としよう



# 省エネグループ通信



省エネグループのご紹介 代表 八木洋一

## 省エネグループの活動について

パリ協定では世界全体で、地球温暖化による平均気温上昇を今世紀末までには産業革命前と比較して2度未満に抑えることが決まりました。日本は温室効果ガスの発生を2030年までに2013年度比26%削減することを約束しました。そのためには家庭部門では40%の削減が必要で、一人一人の省エネ意識の改革が必要です。省エネグループは、市民の家庭での省エネ意識を普及啓発し地球温暖化を防止するため、エコライフチャレンジ、出前授業、環境イベント参加等に精力的に取り組んでいます。ぜひ一緒に活動しましょう。

省エネグループの西丸子小学校5年生環境出前授業を参観して

川崎市生涯学習財団 事業推進室 秋場 尚樹

よくわかったね 面白かったね!

タイトルの「よくわかったね 面白かったね」は、省エネグループの行っている環境の出前授業が終わった後の子どもたちの声である。授業後の子どもたちの思いを如実に表している素直な言葉だと感じました。今年度「環境出前授業」の担当になり、初めて参観させていただいた授業でこの声を聞き、大変驚き感心しました。子どもたち自身が、理解を深め主体的に学習できたからこそ出てきた素直な言葉だと思ったからです。省エネグループの出前授業で参観させていただくたびに感じるのは、分かり易く説明すると共に、教え込むのではなく、子ども達が「見て、触れて、感じて」などの具体的な活動から、省エネグループがねらっている、「気づき」をもって、そして「行動」に移すことができるように、学習を進めていることです。このような授業設計が、子どもたちにとって、環境問題をより身近なものとし、充実した学びができ、学んだことを活かしていこうという意欲を湧きたたせることにつながっていくと感じました。また、実験や体験等の具体的な活動も、より身近なものとするためにも有意義であると感じました。

授業後の子どもたちの声にも、「二酸化炭素が発生しないように、自分たちでも気を付けなければいけないと思った」「話だけではなく、実験や体験できたことが良かった」など多くの声が聞かれ、理解の深まりやこれからの活動に生かされることを強く感じました。子どもにとって、「見て、触れて、感じて」の多い授業だったと思います。 (西丸子小学校5年生の授業風景)



## エコ楽しみ隊の出前授業 チームリーダー 水谷行久

2016 年度の実施内容を見直し、更に最新情報を取り入れてパワーポイントの資料を改訂、学校からの依頼に対応する準備が整いました。そのような中で、今年度は、例年に比べて早くから依頼が殺到し対応することになりました。メンバー一同、昨年以上の良い出前授業にするように張り切って取り組みました。

初めの授業は、「節電にみんなで取り組もう！」のプログラムで、何故節電しなければならないのか？節電の必要性や、家庭の中で多く電気を使っている家電製品は何か？電気を使うことで知らず知らずの間に二酸化炭素を排出していること、その為に自分達も地球温暖化を進めていることを認識してもらう。その中で、どうしたら節電出来て温暖化を防ぐことに結び付けられるかを子ども達と一緒に考えて、具体的に取り組み行動に移してもらう構成となっています。

講義の後には、二酸化炭素が本当に温度を高める働きが有るのかを体験してもらう他に、手回し発電機を使ってエネルギーをたくさん使うと発電するのが難しくなること等を体験してもらい、家庭や学校で電気の無駄使いをしない行動に繋げてもらうことが授業の狙いです。授業後の子ども達のアンケートには、「電気を消しなさいとよく注意されるが、その意味がやっと分かった」「体験して講義の内容がよく分かった」「電気の無駄使いはしない」「居ない部屋は電気を消す」など自分で取り組む行動が具体的に示されていました。これが、実践に繋がり、継続してくれることを期待しています。このプログラムを受けて頂いたのは、3校です。

その他には、「地球温暖化とは？～見て・触れて・感じて～」のプログラムを6校で、「はっぱはえらい！」のプログラムを3校で、「エネルギーってなあに？」を1校で受け取りました。全てのプログラムの授業後の子ども達のアンケートには、「説明の内容が分かり易く、頭に入って来た」とのコメントを多く頂き、年初に見直しをしたことが、成果につながっていることを、強く感じると共に、大きな自信に繋がっています。後期も、色々な学校で出前授業に取り組みます。



(発電体験の様子)



時刻	開始	二酸化炭素	空気	
11時1分	後	37.1 °C	36.0 °C	
10時7分	前	29.4 °C	29.5 °C	CO <sub>2</sub> -空気
早温差	後-前	7.7 °C	6.5 °C	1.2 °C

(CO<sub>2</sub>が温度に与える影響確認実験及びその結果)

2017年 エコライフチャレンジ

(1) 夏休みエコライフチャレンジ活動実績及び予定

4～7月 実施希望校 16校 (向小、小倉小、玉川小、西丸子小、宮内、坂戸、下作延小、梶ヶ谷小、宮崎小、鷺沼小、白幡台小、南百合丘小、王禅寺中央小、真福寺小、はるひ野小、市立豊学校) 7～8月夏休み期間中各校にて実施

9～11月 回収 (現在 13校 890人回収済)・集計・報告

(2) エコライフチャレンジ (冬期版) 活動予定

実施希望校 (藤崎小、南河原小、東小倉小、子母口小、久地小、平小)

2017年 イベントの実績

展示=活動紹介ポスター、燃料電池模型、体験=手回し発電、  
 工作=クリップモーター作り、(参加者数)

(1) 4～10月の活動実績

- ・5/27 (土)「遊びの縁日」(川崎区大島小学校)  
 展示・体験 (約50人)、工作 (20人)
- ・6/28 (火) エコクロスマッチング (CCかわさき交流コーナー)  
 展示等: ポスターセッション(30人)
- ・6/1～30 環境月間 (CCかわさき交流コーナー) に展示参加
- ・7/2 (日) 2017 インターショナルフェスティバル In 川崎  
 展示・体験、燃料電池模型 (約300人)
- ・7/22 (土) 子育て支援センター・講座 (向小学校)  
 「節電に取り組もう」 手回し発電体験 (50人)
- ・7/23 (土) 夏休み自由研究シリーズ (高津市民館)  
 工作 (25人)
- ・8/4 (金) 夏休み体験教室! 多摩区エコフェスタ 2017  
 工作 (10人)
- ・8/20(日) 生田緑地サマーミュージアム (生田緑地)  
 手回し発電、燃料電池模型 (63人)  
 木の観察ツアー (約200人)
- ・9/2 (土)「科学とあそぶ幸せな一日」(慶応大新川崎キャンパス)  
 展示・体験 (約450人) ・工作 (15人)
- ・9/23(土) 自主活動 (早野聖地公園)  
 展示・体験 (30人)
- ・9/17(日)まなぼう! あそぼう! COOL CHOICE ひろば (ラゾーナ川崎)  
 展示・体験 (約250人)
- ・10/8(日)環境エネルギー・ラボ 2017 (二子玉川ライズ)  
 展示・体験 (30人)、工作 (22人)



## 企画チーム講演会の報告 チームリーダー柘植正躬

省エネグループ公開講演会 (2017年1月15日)

「パリ協定、2℃目標達成へ ～森林等のバイオマスの役割の視点から～」

講師 「地球温暖化の辞典」の執筆者のお一人であられる山形与志樹先生を迎えて

省エネグループメンバーの自己研鑽を兼ねた外部講師を招いての恒例の公開講演会を、今年はその3回目として高津市民館での第6会議室で定員一杯の約40名の参加を得て開催しました。

講師はこの分野では第一任者の国立環境研究所 地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室主席研究員の山形与志樹先生にお願いしました。

講演は2部構成となり第一部では、「パリ協定、2℃目標達成へ」へのタイトルのもと講師の専門分野である森林等のバイオマスの役割の視点から特に森林のCO<sub>2</sub>の吸収効果の大きさを説くとともに大気中のCO<sub>2</sub>を減少させるネガティブエミッション技術として、特にバイオマスエネルギー利用 (BE)とCO<sub>2</sub>の回収貯留 (CCS\*)を組み合わせたバイオマス CCS (BECCS) 技術の大規模な導入が現在検討されている事、一方でCCSについてはそれなりの効果を認めながらその実現には地域によってかなり制約があることについても言及されました。

二部では「都市と中山間地域の低炭素・自然共生型ラフスタイル構築」についてご自身が実際に関わった具体例・効果を示しながら過疎化が進む中山間地域と都市との連携の必要性を訴えられました。

当日は省エネグループの他にも市民アカデミーの受講生そして川崎市地球温暖化防止活動推進員を含めた市民の方々が参加してくださり、しかもそのうち2割が女性でした。

地球温暖化対策はもう待ったなし!! の状況下で何が近い将来に決め手になるのか?その中で森林バイオマスの役割、効果はどこまで期待できるのか市民ベースの関心の強さを感じました。

講演会終了後会場近くの居酒屋で省エネメンバーらと有志による懇親会にも山形先生はみんなと初対面ながら夜遅くまで参加され、特に都市と中山間部との連携についてはこの川崎市も積極的に展開を図るべきと我々にもはっぱをかけられました。

\*CCS : Carbon dioxide Capture and Storage の略 二酸化炭素回収貯留。

工場や発電所等から排出される二酸化炭素(Carbon dioxide)を大気放散する前に回収(Capture)し、地下へ貯留 (Storage) する技術。

—ご意見をお寄せください—

本紙に対する、ご意見、ご要望、ご感想、更には皆様のエコ情報・体験などを下記へお寄せください。皆様と共に、地球環境を維持するため、「楽しく、かつこよく、得する」エコを実践していきたいと思っています。

連絡先

川崎市地球温暖化防止活動推進センター 省エネグループ

〒213-0001 川崎市高津区溝口1-4-1 ノクティ2 高津市民館内

TEL 044-813-1313 FAX 044-813-1350

E-mail : [office@kwccca.com](mailto:office@kwccca.com)

ホームページ : <http://syo-ene-group.sunnyday.jp/homepage/>

発行責任者 : 省エネグループ代表 八木洋一

